



## 「ホルモン」ってどんなもの

わたしたちが生きていくには、なくてはならないもの

「ホルモン」は、人間の発育を調節したり、血液の量や、人間が生きるために必要なエネルギーを調節したり、新しい命をたん生させたりなど、わたしたちが生きて生活していくには、なくてはならないものです。

「ホルモン」は、脳下垂体、甲状腺、副甲状腺、膵臓、副腎、生殖腺でつくられ、血液で運ばれて、それぞれ体の中の決まった器官へいき、それぞれの器官のはたらきを、しげきしたり、おさえたりなどのはたらきをします。

子どもの体から大人の体への変化も「ホルモン」のはたらき

子どもが成長していくと、思春期という時期をむかえます。思春期とは、女の子から大人の女性へ、男の子から大人の男性へと、体や心が変化していく時期のことです。

思春期になると、脳から指令が出て、男の子は精巣で男性ホルモンが、女の子は卵巣で女性ホルモンがつくられるようになります。

そして、男の子の場合は、身長がのび体重が増え、筋肉が発達して体つきががっしりし、のどぼとけが出てきて声が低くなったり、体が毛深くなったり、ひげが生えてきたりします。

女の子の場合は、体がふっくらとしてきたり、お乳がふくらんで大きくなってきたりします。

このように、思春期になると、体がいろいろと変化していくのです。（監修・保志 宏）

